



# リサーチ・クリップ

「リサーチ・クリップ」は、旧来の「年金の動き（国内・海外）」を拡充し、NFI リサーチ・レビューで取り扱うさまざまな情報を提供いたします。

最近、関心の高まっている環境や企業の従業員、地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する情報もとりあげてまいります。当面、このようなテーマをESG(環境・社会・ガバナンス)に分類してとりあげます。

※次のマークにより、内容の分類をしています。

<b>年金</b>	公的及び私的年金制度等に関する事項	<b>労働</b>	労働統計、政策等に関する事項
<b>人口</b>	人口統計、少子高齢化問題等に関する事項	<b>高齢</b>	高齢者全般に関する事項
<b>社保</b>	社会保障制度全般に関する事項	<b>経済</b>	経済、財政に関する事項
<b>雇用</b>	雇用統計、政策等に関する事項	<b>ESG</b>	ESGに関する事項

## ◆ESG

### ESG 環境省 アジア太平洋エコ会議の開催結果 (9月13日)

環境省は9月13日、生物多様性をテーマとした、アジア太平洋エコ会議を開催した。本会議の成果文書である、「Countdown 2010 Declaration」の Goals and Principles によれば、本会議の成果及び結論は以下にまとめることができる。

- ・アジア太平洋地域における、生物多様性の危機からの脱却のため、各国国際機関の協力により、2010年を目標に生物多様性の保存と持続可能な自然利用を目指すことを急務とし、効果的な行動を推進することが重要。
- ・生物多様性と気候変動に関する問題の関連性を明らかにし、新たな開発計画と貧困削減のための政策づくりにも、さらなるフォーカスを当て必要性を指摘する。

そして環境省によれば、本会議では日本政府が提案した、農林業生産と密接に結びついた、水田や二次林などの人手の加わった二次的自然環境における生物多様性の保全と持続可能な利用を推進するためのモデルである、「SATOYAMA イニシアティブ」については、多くの参加者から支持を集め、その国際的な推進が重要との認識で一致したとのことだ。生物多様性と持続可能な自然づくりのためのモデルの構築と、発信のため、国際協力が必要との認識が共有された。

[http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=12130&hou\\_id=10183](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=12130&hou_id=10183)

**ESG**

**米国海洋大気庁 世界の7月平均気温が観測史上5番目の暑さを記録(8月15日)**

米国海洋大気庁 (NOAA) によれば、2008年7月の世界平均気温が、2001年及び2003年と並んで、観測史上(1880年以降)5番目の高さを記録したことがわかった。1-7月の7ヶ月間の平均気温も9番目に高かった。7月の気温は、20世紀の平均気温より地表面で0.68℃、海表面で0.42℃、全表面で0.49℃上昇している。1-7月の7ヶ月間においても、地表面で0.75℃、海表面で0.34℃、全表面で0.45℃高かった。

その他、北半球の海水域の縮小、南半球の海水域の増大、フィリピンや台湾等での台風被害、インド北部等での豪雨の被害が深刻であり、気候条件の異変や温暖化の影響が懸念されている。

[http://www.noaanews.noaa.gov/stories2008/20080815\\_ncdc.html](http://www.noaanews.noaa.gov/stories2008/20080815_ncdc.html)

**ESG**

**国際エネルギー機関 欧州連合のエネルギー政策に関するレビューを公表(9月4日)**

国連機関である国際エネルギー機関 (IEA) は、EU のエネルギー政策についてレビューを行い、報告書を公表した。欧州委員会が2008年1月に提案した「気候・エネルギー政策パッケージ」を歓迎し、推進する必要があるとする一方、低コストで目標を達成するために、さらに市場を活用し、全経済部門でのエネルギー効率の改善が必要であるとも指摘している。さらに、2013年までのEUのエネルギー分野の研究開発費が51億ユーロ投入されるのに対し、情報技術には90億ユーロが見込まれている状況から、エネルギー分野の研究開発費を早急に増額すべきだとした。また、EUは2007年の戦略的エネルギー技術計画の策定で、この問題に上手く対処しつつあるが、現行の研究システムプログラムでは、エネルギー分野の資金のうち、おおよそ40%を核融合実験に関する研究につぎ込んでおり、気候変動目標の早急な

達成のため、資金の割り当てをより実現可能性の高い技術へ、優先させるべきであると問題提起している。

[http://www.iea.org/Textbase/press/pressdetail.asp?PRESS\\_REL\\_ID=331](http://www.iea.org/Textbase/press/pressdetail.asp?PRESS_REL_ID=331)

**ESG**

### ブリジストン 早稲田大学と共同で地球環境問題への貢献を目的とした連携研究プロジェクト「W-BRIDGE」をスタート (9月12日)

ブリジストン社は9月12日、早稲田大学と共同で地球環境問題への貢献を目的とした連携研究プロジェクト「W-BRIDGE」をスタートするとして、ニュースリリースした。同プロジェクトは、活者／地域、大学、企業の三者を結び、より効果的かつ実生活に根ざした「地球環境問題への貢献」を目指すことを目的とし、環境問題の課題に対し、産学連携に加え、環境 NGO や市民団体といった一般の市民も参画させ、三者一体で研究・活動を行うプロジェクトであるとのこと。主要な研究領域として、4つテーマを掲げている。

- (1) 地球温暖化対策と生物多様性保全のバランスを考える
- (2) 人々の生活と環境保全活動のバランスを考える
- (3) 次世代の視点で目標を定め、効果的で効率的な環境改善手法を考える
- (4) 環境に関する情報を世界へ効果的に発信し、コミュニケーションする手法を考える

<http://www.bridgestone.co.jp/info/news/2008091201.html>

(社会システム研究所 CSR 調査室 佐藤 拓人)